

都市づくりの理念（検討案）及び都市づくりの基本目標（検討案）について

時代潮流からみたこれからの都市づくりの方向性（都市づくりの視点）を「SWOT分析」における外的要因（機会(O)、脅威(T))とし、これら外的要因ごとに、現況把握結果より明らかとなった内的要因（日進市の強み(S)、弱み(W))を確認、今後の都市づくり上の課題を抽出し、整理を行い、令和元年度第1回都市計画審議会において報告を行った。この整理を踏まえ、今回都市マスタープラン改定にかかる**都市づくりの理念（検討案）**及び**都市づくりの基本目標（検討案）**について意見を伺いたい。

第6次日進市総合計画

【現況把握】

都市構造	1. 「都市機能集積の高い都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○昭和45年以降、本市の人口は90,620人、世帯数は36,707世帯とともに増加を続けています。 ○愛知県人口も2020年以降減少に転じることが予想されるなか、人口ビジョンにおいて本市の人口は当面増加し、2060年では110,764人と見込まれています。 ○総人口に占める市街化区域人口の割合は73.8%となっています。また、市街化区域の人口密度は、昭和50年の18.2人/haから、平成27年には59.4人/haへと増加し人口集積が進んでいます。 ○平成7年よりDIDが形成され、平成27年にはDID人口密度は74.4人/haとなっており、DID基準の40人/haを大きく上回っています。 ○年間1,000人前後の出生数を維持しており、今後も年少人口数は概ね維持と見込まれています。 ○過去10年間の社会動態の平均をみると約580人/年程度、社会増となっており、子ども・子育て世代を中心に増加が続いています。 ○日常生活の利便や安心を支える都市機能は、医療・高齢者福祉・子育て支援施設は市街化区域内において概ね800m圏に分布しています。 ○都市構造の評価によると医療・福祉施設における徒歩圏人口カバー率は高い状況にあります。 ○市街化区域は概ね公共交通の徒歩圏域に属しています。 ○高齢者が増加傾向にあり、高齢化が進行しています。 ○商業系用途地域における商業系土地利用の特化傾向は低く、特に日進駅、赤池駅の周辺における商業集積の低さがみられます。 ○市内大学の学生数が減少し、世帯数の減少がみられます。（空家・空き部屋の発生） ○平成22年から平成27年にかけて、名古屋市に隣接する香久山などの民間借家が多くの立地する一角や日進駅、赤池駅周辺の比較的人口密度が高い地域において人口が減少しています。 ○市街化区域の住宅地において、低・未利用地が広く分布しています。
	2. 「力強く発展を続ける都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○平成7年では従業者数が9,668人、平成27年では12,485人と約2,000人増加しています。 ○自市内就業率は約36.1%であり、周辺都市との比較では高い割合となっています。 ○製造品出荷額、小売業の商品販売額は横ばいであり、工業、商業における伸び悩みがみられます。また、製造業、小売業の事業所数は減少傾向となっています。 ○都市構造の評価によると市街化区域内の従業者人口密度が低い状況にあります。 ○本市の小売吸引力は愛知県を基準とした場合、平成26年では0.64と平成11年以降は1を大きく下回っています。 ○広域交通である東名高速道路、名古屋瀬戸道路の2路線があるものの、インターチェンジは設置されていません。一人当たり製造品出荷額は、2,024万円/人であり、周辺都市との比較では低い値となっています。
都市生活	3. 「観光交流・市民交流を促す都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○特殊公園（歴史公園）である岩崎城址公園が北部に整備されています。 ○教育施設は大学・短期大学が5件立地しています。 ○名古屋や豊田市に近くアクセスし便性に優れたといった地理的優位性を有しており、H23・H26・H28 市民意識調査のいずれにおいても最も良い印象の項目となっています。 ○近年赤池駅周辺において、新たに大型商業施設が立地しています。 ○平成21年の国の観光入込客統計に関する共通基準の策定後、集計対象となる観光地点が市内からなくなっています。
	4. 「安心して暮らせる都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の利便や安心を支える都市機能は、医療・高齢者福祉・子育て支援施設は市街化区域内において概ね800m圏に分布しています。 ○市内の広い範囲で「くるりんぱす」が運行し、年間利用者数は県内上位となっています。 ○市内の鉄道に対する踏切がありません。 ○公共バスの再編により、くるりんぱすから名鉄バスや鉄道への利用者の転換が見られます。 ○市街化区域は概ね公共交通の徒歩圏域に属しています。 ○高齢者が増加傾向にあり、高齢化が進行しています。 ○市街化区域の既成市街地や市街化調整区域に点在する集落において老年人口比率が高くなっています。 ○H28 市民意識調査において、交通の便に関する印象や満足度が最も悪い項目となっています。 ○市街化区域内では、都市公園の徒歩圏外となる利用が不便な地区があります。 ○市内3駅の鉄道の年間乗降客数においては、地下鉄赤池駅への集中が見られます。
都市環境	5. 「災害等に対し安全に暮らせる都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水想定区域が河川沿い付近に限られているほか、地震時において津波の到来が想定されていません。 ○自主防災組織が市内38団体あり、地域における防災訓練の実施など、活動が充実しています。 ○工業系用途地域である浅田地区等では住宅と工場との混在がみられます。 ○狭い道路は市街化調整区域では集落地や河川沿い、市街化区域内では既成市街地を中心に多く分布しています。 ○面整備が実施されていない既成市街地では河川公園の分布がみられません。 ○既成市街地や住宅地造成事業法により形成された団地において、木造の老朽建物が多く分布しています。 ○河川沿いの一部地域において、100年確率の豪雨時に2mを超える河川の浸水が想定されているほか、市街化区域内の一部土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域の指定がみられます。
	6. 「都市の個性を発揮する景観都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○本市を東西に貫く河川の周辺には一団のまとまりのある農用地区域が広がっているほか、河川環境を保全する緑が連続しており、市民意識調査の印象や満足度が高い項目となっています。 ○特殊公園（歴史公園）である岩崎城址公園が北部に整備されています。 ○東部丘陵、御嶽山や北高上緑地を始め、まとまった緑地が残っており、都市化が進む中恵まれた自然環境があり、公有化による保全の取組みも進んでいます。 ○市北部及び東部の森林や広がりのある農地に囲まれた自然豊かな居住環境があります。 ○景観資源でもある農地や森林が減少しており、H23・H25・H28 市民意識調査の悪い印象の2位となっています。 ○工業系用途地域である浅田地区等では住宅と工場との混在がみられます。
都市運営	7. 「環境負荷の小さい都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○本市を東西に貫く河川の周辺には一団のまとまりのある農用地区域が広がっているほか、河川環境を保全する緑が連続しており、市民意識調査の印象や満足度が高い項目となっています。 ○東部丘陵、御嶽山や北高上緑地を始め、まとまった緑地が残っており、都市化が進む中恵まれた自然環境があり、公有化による保全の取組みも進んでいます。 ○市内の広い範囲で「くるりんぱす」が運行し、年間利用者数は県内上位となっています。 ○エコドームの開設や分別等の推進によりリサイクル率が大きく、市民意識調査の満足度の3位となっています。 ○日進駅、米野木駅の利用者の約7割から8割は、「自転車もしくは徒歩を駅端まで交通手段」として利用していますが、赤池駅では約6割となっています。 ○H28 市民意識調査において、交通の便に関する印象や満足度が最も悪い項目となっています。 ○景観資源でもある農地や森林が減少しており、H23・H25・H28 市民意識調査の悪い印象の2位となっています。 ○平成31年4月現在、下水道普及率が県平均は78.7%に対し、日進市は76.2%と若干下回っています。
	8. 「都市運営コスト削減の都市づくり」の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○平成25年以降市街化区域の路線価は概ね上昇傾向にあります。 ○平成24年以降、本市の財政力指数は横ばいであり平成26年時点でも0.99となっています。 ○平成30年から平成42年にかけて、公共施設や下水道の修繕等に係る費用が増加し、充実可能な財源の見込みを超える費用が想定されています。 ○（都）野方三ツ池公園線などの一部都市計画道路において未整備区間があり、今後もインフラ施設の整備費用が必要となる見込みとなっています。

【課題の整理】

強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○増加する人口を受け止める新たな住居系市街地の形成 ○日常的な生活の支えとなるバランスよく立地した都市機能（生活利便施設）の維持・充実 ○子育て支援ニーズを受け止める施設の維持・充実
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化の進行等を踏まえ、主要鉄道駅をはじめ公共交通によりアクセスしやすい地区における居住や商業をはじめとした都市機能の集積強化 ○これまでの社会増（転入増）の維持に向け、学生向け住居への入居促進 ○市街化区域に多く残る低・未利用地の有効活用 ○空家や低・未利用地の有効活用及び魅力向上
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○さらなる従業者の増加に向けた雇用の場の確保、既存産業の拠点強化・充実
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の産業立地の受け皿となる新たな産業用地の形成 ○卒業後の学生等の雇用の場の確保とあわせた居住の場の充実 ○広域交通体系へのアクセス利便性の確保（IC等設置）
強みを伸ばす・弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○市内に大学が多いなど本市ならではの既存ストックや地域資源を活かした交流の拡大 ○新たに立地した大型商業施設を活かした市民交流の場の創出 ○地域資源を有効に使い、地域内外から人を呼び込む場の創出
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な生活の支えとなるバランスよく立地した都市機能（生活利便施設）の維持・充実（再掲）
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化の進行する既成市街地や集落における地域コミュニティの維持・活性化（日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等） ○進行する高齢化社会に対応した鉄道駅へのアクセスを含め、日常生活を支える広域的視点も踏まえた都市交通機能の充実 ○都市公園等が不足する地区の解消
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○地震等の災害時におけるさらなる減災対策 ○防災・減災について想定される事象への事前準備や対応訓練の実施 ○若者世代や転入者等への防災意識や共助力の向上
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○浅田地区等における住工混在地区の解消 ○既成市街地に残る未整備市街地や狭い道路の改善、低・未利用地の活用等による都市の防災性の強化 ○浸水、土砂等の危険性の高い区域における防災、減災対策の実施及び新たな開発抑制
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○景観資源として農地や山林の有効活用 ○東部丘陵等のまとまった緑地の市民に開かれた活用・保全
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域を取り巻く農地や山林の保全 ○浅田地区等における住工混在地区の解消
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域を囲んだ豊かな水辺環境、自然環境の保全 ○河川を活かした水と緑のネットワークの形成 ○景観資源として農地や山林の有効活用 ○東部丘陵等のまとまった緑地の市民に開かれた活用・保全
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○適度に自動車に依存しなくても暮らしやすい都市構造や生活圏への再構築 ○CO2排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からも利便性の高い都市交通機能の維持・形成
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○空家や低・未利用地の有効活用等による土地の価値の向上
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽化するインフラ施設に対する効率的な修繕・更新の実施、長寿命化による更新コストの削減 ○インフラ施設の維持管理に対する住民や民間事業者等の協働化の促進

【都市づくりの理念（検討案）】
豊かな緑を大切にして、誰もが将来にわたり暮らしやすく、持続可能な生活圏を構築するとともに、都市活力を生み出す

【都市づくりの基本目標（検討案）】

- 将来にわたり暮らしやすい都市づくり**
公共交通の充実や、誰もがアクセスしやすい中心拠点・鉄道駅周辺の都市機能の活性化、徒歩圏内に子育て支援施設等の生活利便施設が充実している市街地環境の質の向上を目指す。また、集落地における日常生活に必要な機能の確保等により、誰もが将来にわたり暮らしやすさを実感して、住み続けられるように、地域の特性に応じた身近な生活圏づくりを目指す。
- 産業活力のある都市づくり**
スマートICの整備等による広域交通体系へのアクセス利便性の確保や既存産業の拠点強化・充実、就業の場となる新たな産業拠点の形成や生産性の高い優良農地等の保全等により、本市の産業活力を強化するとともに、新たな雇用の場を確保するため、広域交通基盤の充実を含めた産業機能の充実を目指す。
- ふれあいにぎわう都市づくり**
既存ストックや商業施設、地域振興施設等を活かした市民や学生、子育て世代等がふれあう市民交流の場の充実や市外の交流人口を呼び込むための拠点の整備等により、高齢化が進行する中で地域を元気づけるとともに、地域コミュニティの維持・活性化や新たな都市活力の創出に向けて、ふれあいにぎわう市内外による交流の拡大を目指す。
- 安全安心な都市づくり**
既成市街地における土地利用の混在解消や木造老朽建物の更新促進、道路の改善や低・未利用地の活用、無秩序な開発の抑制や地域と連携した防災・減災対策の充実等により、都市防災力を強化するとともに、日常生活を支える交通機能や都市施設の質の向上により安全安心な暮らしの確保を目指す。
- 環境に優しい都市づくり**
東部丘陵に広がる緑地や市街化区域を取り巻く農地等の本市の魅力となる豊かな自然環境や水辺環境の保全、景観資源としての有効活用や都市部における市民協働や民間活力の活用等による緑の質の向上を目指す。また、効率的な都市整備・交通機能の充実による低炭素化の推進や都市運営コストの削減、豊かな自然環境を保全・活用するとともに、環境負荷の小さい都市環境の形成を目指す。
- 持続可能な都市づくり**
空家、低・未利用地の有効活用や無秩序な開発の抑制、市民協働による生活環境の保全促進により地域の特性に応じた景観形成や既成市街地の価値向上を目指す。また、市役所をはじめとする公共施設や道路等の都市施設の相互利便性の向上、効率的な更新、維持修繕、長寿命化を行い、将来世代にも持続可能で適切な規模での都市づくりを目指す。

【計画フレーム(検討案)】

・人口フレーム
約7ha
・産業フレーム
約48ha
(※日進東部地区企業団地を含む)

【将来都市構造(検討案)】

本市の都市構造の現状と都市づくりの理念と目標を踏まえ、本市の将来の都市構造（ビジョン）を定めます。



■日進市のこれまでの都市計画マスタープランの都市づくりの理念と目標、将来人口、計画フレーム(参考)

策定年月	目標年次	都市マスタープラン上の都市づくりの理念 (参考)総合計画における将来都市像		都市マスタープラン上の都市づくりの基本目標	将来人口	拡大住宅地面積	拡大工業地面積	拡大商業地面積
平成7年3月	平成22年	緑の中の多機能都市 (緑をたたえた誇りうる快適空間の創造)		1. 「心のふるさと日進」をつくるために自然と歴史を生かしたまちづくり	90,000人	394ha	55ha	27ha
		第3次日進町総合計画:緑の中の多機能都市		2. 個性と活力ある多機能都市として各種産業の振興をめざすまちづくり				
平成22年3月	平成32年	農地や緑地をはじめとする豊かな自然を守り・育みつつ、「ベッドタウン」から多様な世代が暮らし続けることのできる「生活環境が豊かで充実した都市」へと再構築を進める		3. 頭脳交流都市の形成を目標にインテリジェント・フォレスト構想の実現をめざす	約100,000人	新規の開発に伴う住居系市街地の拡大は行わず、現在の市街地内にみられる低未利用地の有効活用を図る。	約20ha	約23ha
		第4次日進市総合計画:ひと・みどり・ふれあいがつくる高環境生活都市 -安全・安心な暮らしと真に豊かな暮らしのできる都市をめざして-		4. 高齢化社会に対応した快適で安全なまちづくり				
令和2年度末 (予定)	令和12年 (予定)	豊かな緑を大切に、誰もが将来にわたり暮らしやすく、持続可能な生活圏を構築するとともに、都市活力を生み出す(検討案)		5. 良好な居住環境が確保され、土地の合理的利用に配慮した秩序と計画性のあるまちづくり	約100,000人 (検討案)	(人口フレーム(検討案)) 約7ha	(産業フレーム(検討案)) 約48ha	
		第5次日進市総合計画:いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市		農業振興・緑地保全と調和した集約的・効率的な土地利用の実現				
		第6次日進市総合計画:未定		将来にわたり暮らしやすい都市づくり(検討案)	約100,000人 (検討案)	(人口フレーム(検討案)) 約7ha	(産業フレーム(検討案)) 約48ha	
				産業活力のある都市づくり(検討案)				
				ふれあいにぎわう都市づくり(検討案)	約100,000人 (検討案)	(人口フレーム(検討案)) 約7ha	(産業フレーム(検討案)) 約48ha	
				安全安心な都市づくり(検討案)				
				環境に優しい都市づくり(検討案)	約100,000人 (検討案)	(人口フレーム(検討案)) 約7ha	(産業フレーム(検討案)) 約48ha	
				持続可能な都市づくり(検討案)				

※平成30年3月「第6回市街化区域及び市街化調整区域に関する都市計画の見直しの手引き」(愛知県)により、計画フレームにおいては工業用地と商業用地を合わせて産業用地として設定することとなっている。

■最近改定のあった近隣市の都市計画マスタープランの都市づくりの理念と目標、将来人口(参考)

市名	策定年月	目標年次	都市マスタープラン上の都市づくりの理念 (参考)総合計画における将来都市像		都市マスタープラン上の都市づくりの基本目標	将来人口
豊明市	平成29年3月	平成38年度 (令和8年度)	暮らしやすさを維持・向上させるとともに、経済的にも自立した都市づくり		生涯にわたり、市民の健康を育み、生きがいづくりを支える	71,000人
			第5次豊明市総合計画:みんなであつなぐしあわせのまちとよあけ		拠点の利便性を高め、多様な移動手段を確保する	
瀬戸市	平成29年7月	平成38年度 (令和8年度)	住みたいまち 誇れるまち 新しいせと		安全・安心でゆとりある暮らしができ、まちの質を高める	126,700人
			第6次瀬戸市総合計画:住みたいまち 誇れるまち 新しいせと		にぎわいと都市の活力をひき出す	
豊田市	平成30年3月	2027年 (令和9年)	-		活力ある地域経済と豊かな暮らしを実感できるまち	413,500人 (都市計画区域) 430,000人 (豊田市全域)
			第8次豊田市総合計画:つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた		安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち	
安城市	平成31年2月	2028年 (令和10年)	都市の将来像「幸せつながる健幸都市 安城」の実現。		地域に住まう市民が自立し支え合い、笑顔あふれるまち	192,000人
			第8次安城市総合計画:幸せつながる健幸都市 安城		様々な都市機能が便利に使える都市づくり	
				都市の活力が将来にわたって持続する都市づくり	192,000人	
				安全で安心して暮らし続けることができる都市づくり		
				環境にやさしく、個性や魅力を高める都市づくり	192,000人	
				みんなでまちをつくる! 都市機能が便利に使える集約型都市づくり。		
				みんなでまちをつかう! 市民とともに育む持続可能な都市づくり。	192,000人	
				みんなで活きる力をつくる! 活力と活気で賑わいあふれる都市づくり。		
				みんなで安心をつくる! 安全・安心に暮らせる都市づくり。	192,000人	
				みんなで心地よさをつくる! 人と自然が共生する都市づくり。		